

令和元年度 清原南小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

人間尊重を基盤に、知・徳・体の調和のとれたたくましい児童の育成を目指し、日本の伝統や文化を大切に、平和な国家の形成者として、21世紀を担う心身ともに健康で心豊かな子どもを育成する。

たくましい子	元気に運動し、健康でたくましい心と体をつくる。
思いやりのある子	ルールやマナーを守り、協力して生活する。
よく学ぶ子	基礎・基本を身に付け、進んで学習する。

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

恵まれた自然環境と、143年の長い歴史と伝統を有する本校に勤務することに誇りと責任をもち、子どもへの愛と同僚との和をもって児童・保護者・地域の方々と共に歩み、自らの資質を高め、教育目標達成のために全力を尽くす。

また、先人に感謝しつつ、母校への誇りと自分の尊厳を高めるような教育活動を展開し、子どもたちに「未来を拓く人間力」を身に付けるため、児童・教職員・保護者・地域が連携し「地域に開かれた信頼される学校づくり」・「清原地域学校園小中一貫教育」を推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 地域に開かれ地域と共にある学校づくりの推進
- (2) ○小中一貫教育の充実と教育活動の工夫・改善
- (3) 教職員の資質の向上と、高い指導力と確かな教育理念の体得
- (4) ○言語活動や読解力、表現力の育成
- (5) 根拠に基づく指導の推進
- (6) 教育的ニーズに対応し、全ての児童が所属感のもてる学校づくり
- (7) ○夢や希望をもって未来を生き抜く児童の育成
- (8) 教育の焦点化、ICTの活用、協働体制の確立による教育の効率化と教職員の働き方改革の推進

〔清原地域学校園教育ビジョン〕

自己を見つめ、自己のよさを生かした夢の実現に向けて、主体的に取り組む児童生徒の育成
～人との豊かなかかわりを通して～

4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法、同施行規則、新小学校学習指導要領等の法令並びに栃木県教育委員会の方針「とちぎ教育振興ビジョン」、宇都宮市教育委員会の学校教育の重点「第2次宇都宮市学校教育推進計画」「第2次宇都宮市学校教育スタンダード」の示すところに従い、公教育の立場を堅持し本校の教育目標達成のため、調和と統一ある教育課程を編成する。
- (2) 人間性豊かな児童の育成を目指すために、各教科、特別な教科道德、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動の有機的な関連を図り、各領域がそれぞれ充実した調和と統一ある教育課程を編成する。
- (3) 本年度の学校教育目標・学校経営の方針を踏まえ、児童の実態に応じた指導が計画的に行われるように考慮して編成する。
- (4) 「地域とともにある学校」作りを推進するため、地域の特性や願いをもとに児童に必要な資質・能力を明確にし、地域資源を活用して、社会に開かれた教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- 【学 校 運 営】○清原地区地域学校園構想と小中一貫教育としての取組を充実させ、体験活動や読書活動などを通して子どもたちの「生きる力」を育む。
- 【学 習 指 導】○ともに学び合いを楽しみ、自ら考え、問いをもって、仲間と一緒に進んで学び続ける児童の育成に努める。
- 【児 童 生 徒 指 導】○自他のよさを認め、主体的によりよい集団生活を送ろうとする児童の育成に努める。
- 【健康（体力・保健・食・安全）】○自ら積極的に運動し、健康でたくましい心と体をつくろうとする児童の育成に努める。

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す児童の姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 児童肯定的回答 80%以上	意欲的に取り組むような発問の工夫、教材の開発、学習形態等について、教職員同士で考えを提案し、実践する。 1 個に応じた作業プリントや教材等を工夫し、意欲的に授業に取り組むことができるようにする。 2 学習形態を工夫し、互いの考えを認め、学び合いができるように努める。	B	【達成状況】児童肯定的回答 89.7% ・昨年度と比較して、保護者の肯定的回答が92.2%と高く、児童の目標も達成できている。 ・1では少人数指導を充実させ、児童が集中し安心して学べるようコースの設定を工夫した。コースに応じてめあてを明確にし、達成感をもてるよう、学習の見通しをもって取り組ませた。 ・2では互いの考えを認め、学び合いができるようグループやペア学習を積極的に取り入れることで、自信をもって学習に参加することができるようになった。 【次年度の方針】 ・1では、単元を見通したワークシートの作成や活用を行い、どの児童も考えを整理したり、発信したりできるように努める。 ・2では、グループ学習での内容を全体で共有できるよう、ホワイトボードなどを使って学び合いを進める。
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 児童肯定的回答 80%以上	学校活動全般を通して、思いやりの心を育てる教育活動の充実を図る。 1 道徳の授業を通して、学び合いを楽しみながら、仲間と一緒に進んで学び、親切・思いやりの心を育む。 2 読書活動（読み聞かせ・読書まつり）の充実を図り、子どもたちの「生きる力」を育む。	B	【達成状況】児童肯定的回答 88.4% ・1では学校課題をもとに、道徳の授業を通して学び合いを楽しみながら進んで行えるよう、授業形態や、児童の心を可視化して共有できる教材の研究と活用を進めた。 ・2ではボランティア（南風）による読み聞かせを充実させ、地域の方々との交流を図ることができた。 【次年度の方針】 ・1では道徳の授業を充実させ、生活の場で生かしていけるよう実践への意欲も高めていく。 ・2では引き続きボランティアの方々の読み聞かせをすることで、地域の人との触れ合い、本との触れ合いをさらに充実させていく。読書まつりを早めに計画的に進めていく。

A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」児童肯定的回答 80%以上	児童情報交換会を活用して全職員が共通の認識をもちながら、さまざまな場で子どもにかかわり、それを児童情報交換会で報告する。 1 「清原地域学校園の方針・約束・一日」を積極的に活用する。 2 下校集合時にきまりやマナーについて全体に指導をする。	B 【達成状況】児童肯定的回答 86.7% ・1では、生活目標を活用して指導することができた。 ・2では、集合時の他に各クラスでも実態に応じて、適宜担任が指導できた。 【次年度の方針】 ・1では、「清原南小の約束と一日」を、児童と家庭に周知し、年度途中にも、学級懇談や便りで発信を継続する。 ・2では、生活当番の職員が、月曜の放送で今週の目標の発表を行い、全校児童への周知をする。朝会がある時は、月・火曜日の生活の様子も含めて当番職員から話をする。
A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」児童肯定的回答 80%以上	元気にあいさつし、時と場に応じた言葉遣いを指導する。 1 年に2回、児童会主催のあいさつ運動を実施したり、月に1回、南部地区総ぐるみあいさつ運動を実施したりすることで、意識を高めていく。 2 あいさつの習慣化を主体的に図るため標語の募集やポスターの作成を児童会が中心になって行う。	B 【達成状況】児童肯定的回答 92.7% ・1では、月初めの登校指導に併せて、南部地区総ぐるみあいさつ運動とPTAの立哨による安全確認とあいさつ活動を行った。 ・2については、十分な活動ができなかった。 【次年度の方針】 ・1では、あいさつ運動のあり方を、児童主体の取組になるように検討する。あいさつ標語やポスター等、児童の言葉を活用して主体的なあいさつ活動になるようにする。 ・2では、あいさつ運動について、実施の方法や意義を事前に児童に指導することで、自分から行動できるようにする。また、あいさつ運動終了後は、担当職員が振り返りを行うことで、次への意欲付けを図る。
A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」児童肯定的回答 80%以上	夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組む姿に対して、称賛・助言・励まし等の支援をし、意欲を高める。 1 持久走大会や各種検定において、より高い目標をもって練習に取り組めるよう支援する。 2 学期ごとに「学習・生活」のめあてを立て、学期末に振り返りをするすることで、自分の努力の結果と向き合わせるようにし、さらに意欲を高めるようにする。	B 【達成状況】児童肯定的回答 88.9% ・1では、個人の目標を設定し、運動への意欲を高めることができた。 ・2では、各自が努力の結果と向き合い、次学期への意欲を高めることができた。 【次年度の方針】 ・1では、児童の実態に合わせて、検定の項目内容の見直しを推進する。 ・2では、継続して児童にめあてをもたせ、意欲を高めるようにする。

A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、健康や安全に気を付けて生活をしている。」 児童肯定的回答 80%以上	自分の体は自分で守ることの大切さを指導する。 1 体育の授業において運動量を十分に確保するとともに、運動の楽しさを実感できるようにし、意欲付けを図る。 2 養護教諭と連携し、保健の授業や学級指導の授業を充実させたり、保護者等への啓発を図ったりする。 3 各種たよりやお弁当の日などを通して、食の大切さを指導する。 4 朝会后や下校集合時に、交通安全や生活安全について全体指導をする。	B 【達成状況】児童肯定的回答 95.2% ・1では、体力向上を図るため、検定表を用いて水泳や縄跳びに取り組みせることで、運動に親しむことができた。 ・2では、手洗いやうがいについては、養護教諭、保健委員会での呼びかけを実施した。歯の健康教室や薬物乱用防止教室を行うことで、養護教諭と連携し、授業の充実が図られた。また、保護者へは、保健だより等で啓発を図ることができた。 ・3では、食育だよりやもぐもぐ便り等で家庭への啓発を図ることができた。また、お弁当の日を通して、感謝の気持ちや食の大切さに気付かせることができた。 ・4では、教職員が共通理解を図り、朝会后に生活目標を確認したり、下校時の登下校指導をしたりすることで、児童は安全を意識して生活することができた。 【次年度の方針】 ・1では、運動量を高めるため、発達段階に応じた運動について、教職員同士で情報交換を積極的に行う等、指導法の工夫を図る。 ・2では、今後も保健だよりを活用し、手あらいやうがいの励行を継続して指導していく。また、発達段階に応じた授業を実施するとともに、保健だよりや学校保健給食委員会等で保護者への啓発を図る。 ・3では、お弁当の日に発達段階に応じたためあてにしたがって取り組むことで食への意識を高めていく。継続して食育だよりを発行することで保護者への啓発を図る。 ・4では、朝会時や下校集合時、学級指導等で学校の決まりや安全な過ごし方を確認し、けがのない安全な生活を送ることができるよう指導していく。
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 児童肯定的回答 80%以上	児童の発達段階に応じて、自分の夢や目標をもてるようにする。 1 <u>「清南ドリームプロジェクト」で「私の夢」を掲示し、意欲を高めるようにする。</u> 2 <u>宮・未来キャリア教育の充実を図り、自分のよさを生かして協力して働いたり、様々な職業や生き方についての理解を通して、将来についての夢をもてたりするよう指導する。</u>	B 【達成状況】児童肯定的回答 88.9% ・1については児童も関心をもって見て、友達の夢をお互いに認め合えた。 ・2については、4年生の「夢プロジェクト」や6年生の「夢実現教室」で、考える機会をもつことができた。自分のよさや協力して働くことについては、各クラスで日々の活動の振り返りをする中で実施した。 【次年度の方針】 ・1では、「清南ドリームプロジェクト」で「私の夢」を掲示し、意欲を高めるようにする。 ・2では、宮・未来キャリア教育の充実を図り、自分のよさを生かして協力して働いたり、様々な職業や生き方についての理解を通して、将来についての夢をもてたりするよう指導する。 ・宮未来キャリア・パスポートに向けて活動の蓄積ができるように、掲示の仕方や保管の方法について検討する。

A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 児童肯定的回答 80%以上	子どもたちが意欲的に英語に親しめるような環境づくりを行う。 1 ALTと交流する機会を多く持ち、会話を増やす。 2 図書資料や英語教材の充実を図る。 3 クラスルームイングリッシュを積極的に使用し、慣れ親しめるようにする。 4 英語担当教員とALTとの打ち合わせを行い、効果的な授業の展開を図る。	【達成状況】児童肯定的回答 88.7% ・1ではALTとの授業をできるだけ多く持ち、交流給食も行った。 ・2ではアルファベットカードを作り、楽しんで交流する学習を行うなど、学習プリントを工夫し、書くことも取り入れた。 ・3では各教室に配布し、授業中に教師や児童が使えるようにした。 ・4では事前に教材研究をし、ポイントを絞って効率よく打ち合わせができるよう工夫した。 【次年度の方針】 ・1234ともに継続して、来年度もALTと協力して、英語活動の充実を図る。
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、宇都宮のよさを知っている。」 児童肯定的回答 80%以上	児童が宇都宮の良さを理解できるように指導する。 1 生活科や社会科の学習で、宇都宮の伝統文化、産業などについて理解し、郷土への愛情と誇りを持てるような授業を実施する。 2 国語や学級活動の時間で、百人一首の学習を取り入れる。	【達成状況】児童肯定的回答 82.2% ・1では、校外学習等を通して、宇都宮市の伝統文化や産業などに触れることができ、宇都宮の良さを理解することができた。 ・2では、国語や学級活動の時間に百人一首について触れることができた。 【次年度の方針】 ・1では、生活科や社会科、総合的な学習の時間の「宇都宮学」を通して、郷土への愛情と誇りをもてるようにする。 ・2では、今後も継続して、百人一首に親しむ機会を設ける。
A 10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 児童肯定的回答 80%以上	児童の発達段階に応じて、ICT機器や図書等を活用した教育活動の充実を図る。 1 各教科等の学習において、パソコンや図書資料を活用した調べ学習を、情報教育年計に位置付け実践する。 2 学年の発達段階に応じて、ワープロやプレゼンテーションソフトを活用して「まとめる」学習を取り入れる。	【達成状況】児童肯定的回答 85.2% ・1では、各教科等の学習において、パソコンや図書資料を活用した調べ学習を行っている。 ・2では、各学年の発達段階に応じてまとめる学習にパソコンを使う努力をしてきた。 児童の肯定的回答率は、数値的には達成したと言えるが、課題は残る。保護者の肯定的回答率も63.1%と低い。 【次年度の方針】 ・1では、児童の発達段階に応じて、さらに活用を図っていきたい。 ・2では、授業参観などでパソコンを活用したまとめるの学習を取り入れる等、保護者へのPRを図る。
A 11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 児童肯定的回答 80%以上	教育活動全体を通して、高齢者とふれあう機会の充実を図る。 1 1年生活科の「昔遊び」、3年社会科の「七輪体験」等において、高齢者の方を学習ボランティアとして活用する。 2 「地域ふれあい給食」に地域の高齢者の方を招待し、交流を図る。	【達成状況】児童肯定的回答 88.4% ・1では、1年生の生活科や3年生の社会科など、高齢者の方を学習ボランティアとして活用し、充実した活動ができた。 ・2では、地域の高齢者の方を2年生の教室に招待し、交流を図った。 【次年度の方針】 ・1では、さらに活用場面を探っていく。 ・2では、地域の高齢者の方とのふれあいを深めるため、行事としての位置付けを再検討する。

A 12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、環境問題や防災等の『持続可能な社会』について、関心をもっている。」児童肯定的回答 80%以上	学校行事や学習指導において、「持続可能な社会」について学び、関心を持てるようにする。 1 教科や総合的な学習を通して、環境問題や防災等について学び、「持続可能な社会」についての意識を高める。 2 学校行事や委員会活動において、環境や資源を守るための取り組みを行い、「持続可能な社会」づくりへの参画をする。	B 【達成状況】児童肯定的回答 83.2% ・1では主に社会科の学習や総合的な学習を通して、「持続可能な社会」について学ぶことができた。 ・2では学校行事や委員会活動において、ゴミの減少やリサイクル、緑化活動を積極的に行った。 【次年度の方針】 ・1では教育活動全般において、命やものを大切にする意識を育み、「持続可能な社会」への実践力を養う。 ・2では継続して「持続可能な社会」への実践へむけて、児童主体の取り組みができるようにする。
B 1 児童は、家庭学習の習慣を身に付けている。 【数値目標】 全体アンケート「児童は、宿題や自主学習をすることが習慣化されている。」児童・保護者回答 80%以上	「清原っ子家庭学習の約束」により家庭学習の習慣化を家庭と連携しながら推進する。 1 授業参観や懇談、学習だよりなどを通じて、機会あるごとに保護者へ状況を知らせ、理解・協力を依頼する。 2 家庭学習に対して称賛・助言・励まし等の支援を適切に行い、児童の課題意識・意欲を高めるようにする。	B 【達成状況】児童肯定的回答 84.3% 保護者肯定的回答 76.2% ・1では授業参観や懇談・学習だよりを通して、保護者へ状況を知らせ、理解と協力を呼び掛けた。 ・2では個人差に応じた助言・称賛・励ましなどの支援を適切に行い、児童の課題意識や意欲を高めるようにした。 【次年度の方針】 ・1では発達段階に応じて、自分で課題を設定する力、見通して学習する力、予習復習の大切さについて知らせ、保護者の家庭学習への意識を高める。 ・2では帰宅後に自分で時間を設定して学習に取り組む習慣を意識づけるようにする。
B 2 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は休み時間や放課後などに進んで運動している。」児童肯定的回答 80%以上	進んで運動ができるような環境を整える。 1 縄跳びの自主的な練習のために、ジャンプ台を用意したり、鉄棒の学習カードを用意したりすることで、楽しく取り組めるようにする。 2 「うつのみや元気っ子プロジェクト」のミニマム達成をねらって、運動量の多い体育の授業を実践していく。	B 【達成状況】児童肯定的回答 75.8% ・1では、縄跳びの自主的な練習のために、ジャンプ台を用意し、児童の実態に応じて学習カードを用意するなど、進んで運動ができる環境を整えたが、個人差があった。 ・2では、学校全体で、体育のウォーミングアップの際には、全身運動を取り入れ、児童の運動量を確保したが、ミニマムの達成状況に大きな変化はなかった。 【次年度の方針】 ・1では、継続して運動ができる環境を整えるとともに、休み時間に外遊びをするように声かけをしたり、クラス遊びの時間を設定したりしていく。 ・2では、体育の授業等においてミニマムに関わる補強運動を取り入れ、基礎体力の向上を図る。

目 指 す 学 校 の 姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童当の実態に応じて、適切な支援をしている。」 教職員肯定的回答 80%以上	一人一人の教育的ニーズを把握し、実態に応じた支援を実践する。 1 「生活目標」「清原地域学校園の方針・約束・一日」を積極的に活用し、生活規律・授業規律を整える。 2 分かりやすい授業の展開や個に応じた支援の方法を工夫する。 3 校内支援委員会等を活用し、支援を必要とする児童の把握や適切な支援について検討し、実践する。	B 【達成状況】教職員肯定的回答 92.3% ・1では、学校生活のリズムを整えて、落ち着いて生活・学習ができた。 ・2では、各担任が工夫したり学年やブロックで連携をしたりしながら実施した。 ・3では、校内支援会議やケース会議を行って支援の方針を決定することができた。 【次年度の方針】 ・1では、授業の始まりを意識させるために、3時間目・5時間目の始業時刻にもチャイムを鳴らすようにする。 ・2では、個に応じた支援のもとに分かりやすい授業を展開できるように、児童の記録やQ-Uアンケート、ケース会議の内容等を活用する。 ・3では、校内支援委員会等を活用し、支援を必要とする児童の把握や適切な支援について検討し、実践する。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 児童肯定的回答 80%以上	いじめの未然防止、早期発見及び早期解消のため、児童理解に努め、信頼関係を築く。 1 年2回の「いじめゼロ強調月間」では、児童会によるいじめゼロ集会や標語の募集、関連する道徳の授業を実施する。 2 日頃より児童の様子を観察するとともに、学級活動及び日常生活の中でいじめは許されない行為であることを継続的に指導する。	B 【達成状況】児童肯定的回答 97.5% ・1では、効果的に実施することができた。 ・2では、今後も継続して実施していく。いじめアンケートや教育相談の機会も利用して、未然防止・早期発見に努める。 【次年度の方針】 ・1では、保護者へ学校への取組みを発信する機会を増やすために、学級懇談や各種便りを有効に使う。 ・2では、いじめアンケートがない月には、月末になかよしアンケートを行い、早期発見や児童とのコミュニケーションに活用する。 ・3では、学年だよりの裏面等で、いじめゼロの道徳授業など、取り組みの様子を発信する。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 児童肯定的回答 80%以上	すべての児童にとって、自分の居場所となるような温かい雰囲気のある学級経営に努める。 1 「挨拶」「励まし」「称賛」等の声かけを実践する。 2 児童が主体的に活動する場面や活躍できる場面を設定する。 3 児童や保護者に積極的に関わりをもち、普段からの信頼関係づくりに努める。	B 【【達成状況】児童肯定的回答 96.2% ・1では、全職員が自分から機会を見つけて言葉をかけることができた。 ・2では、学年の発達段階に応じて、全児童が役割をもてるように各クラスで場面の設定を行った。 ・3では、日々の活動での関わりの他に、教育相談や学年便り等を活用して、関わりや発信を行った。 【次年度の方針】 ・1では、情報交換であがった児童の様子を全職員で把握し、言葉かけや指導に活用する。 ・2では、児童が主体的に活動する場面や活躍できる場面を設定する。 ・3では、児童や保護者に積極的に関わりをもち、普段からの信頼関係づくりに努める。

A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 教職員肯定的回答 80%以上	多様な教育的ニーズへの対応強化を図る。 1 情報交換会を実施し、学校全体で特別な支援が必要な児童の共通理解を図る。 2 研修や校内支援委員会を通して、適切な支援の方針について知識や理解を深め、関係諸機関と連携しながら対応する。	B 【達成状況】教職員肯定的回答 92.3% ・1では、情報交換会を実施し、学校全体で特別な支援が必要な児童の共通理解を図ることができた。 ・2では、研修や校内支援委員会を通して、適切な支援の方針について知識や理解を深め、関係諸機関と連携しながら対応することができた。 【次年度の方針】 ・1では、継続して情報交換会を実施し、職員間での共通理解を図る。 ・2では、継続して関係機関と連携しながら対応していく。
A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、今の学校が好きです。」 児童肯定的回答 80%以上	教職員は子どもの悩みを把握し、効果的に教育相談を実施したり、活気ある活動を充実したりする。 1 教育相談の充実及びQ—Uテストの活用により、児童同士の人間関係づくりに努力する。 2 学校行事や児童会活動・委員会活動において児童主体の活動を推進・工夫し、学校生活に潤いを与える。	B 【達成状況】児童肯定的回答 89.7% ・1では、Q—Uに関する職員研修を実施し、Q—Uの結果を基に、円滑な児童の人間関係を構築できるよう学級経営に生かした。 ・2では、地域学校園の中学校と協力してあいさつ運動を行ったり、縦割り班活動で異学年交流をしたりして、高学年を中心に児童主体の活動を充実させることができた。 【次年度の方針】 ・1では、教育相談や日常の個別指導などを継続して行い、よりよい人間関係の構築に努める。 ・2では、あいさつ運動や縦割り班活動、委員会活動など児童主体の活動の推進を図る。
A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 児童肯定的回答 80%以上	発言やノートの記述等から、一人一人の学習状況を見取り、適切に支援するとともに、友達同士学び合う場を設定した授業を行う。 1 習熟度別学習等、個に応じた指導と学び合いの場面を設定する。 2 児童が学んだことを実感できる振り返りの場を設定し、授業改善に役立てる。	B 【達成状況】児童肯定的回答 96.5% ・1では少人数習熟度別の学習形態を取り入れ、個に応じた指導ができるようにした。児童にとって効果のあがる学習ができるように、適切な支援を行い、子どもの声に答える丁寧な指導に努めてきた。 ・2では振り返りの時間の確保、効果的な方法を工夫した。 【次年度の方針】 ・1では発達段階に応じて、学び合いの形態を工夫し、教材を研究して継続的に児童が学び合いができるようにしていく。 ・2では振り返りの時間の確保、効果的な方法を工夫し、次の時間への意欲をもたせる。

A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 教職員肯定的回答 80%以上	教職員と多様な専門性を有する学校スタッフが、自らの専門性を十分に発揮し、「チームとしての学校」の教育力を発揮できる体制をつくる。 1 教職員と多様な専門性を有する学校スタッフの間で、課題意識等の共有を進め学校におけるチームとしての取組を推進していく。 2 学年・ブロックの枠にとらわれないプロジェクトチームを設定し、OJTを充実させ、コミュニケーションの活性化を図る。	B 【達成状況】教職員肯定的回答 100% ・1では、教職員と多様な専門性を有する学校スタッフは共通の課題を双方の立場から解決しようと意見を出し合い、主体的に取り組めた。 ・2では、学習指導部を中心にして、一人一授業や道徳の授業研究、教材教具の開発に取り組むことができた。 【次年度の方針】 ・1では、学校課題を共通の課題としてとらえ、自分が主務者という意識がもてるようにしていく。 ・2では、教育活動全体を通して積極的に関わることで、意見の言えるチームの一員として、よりよいコミュニケーションが図れるようにしていく。
A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 教職員肯定的回答 80%以上	業務の改善を図るとともに、一人一人が勤務時間を意識することにより、働き方改革を推進する。 1 業務を見直し、精選するとともに、チームとして取り組むことで、負担の軽減を図る。 2 一人一人が退勤時刻を設定したり、学校・学年・ブロック等で月に2日程度のリフレッシュデーを設定したりすることで、勤務時間を意識した働き方に努める。	B 【達成状況】教職員肯定的回答 65.4% ・1では、教職員と多様な専門性を有する学校スタッフがお互いに協力し合い、それぞれの立場を生かし校務に取り組んだ。 ・2では、月に2日程度のリフレッシュデーを設定したり、退勤時刻にチャイムを鳴らしたりし、勤務時間を意識した働き方ができるよう努力してきた。 【次年度の方針】 ・1では、各自の校務分掌の立場で、業務の精選と軽減を図る。 ・2では、係や学年などの打ち合わせは、時刻を決め、個人の時間を確保する。
A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている。」 児童・教職員肯定的回答 80%以上	学校園全体研修会や各部会等で研修に努め、充実した取組を行う。 1 中学校教員の6年生に対する乗入授業を通して、中学校の学習に対する明るい展望がもてるようにする。 2 学校園あいさつ運動により、中学生との交流を図り、コミュニケーション力を高めるようにする。	B 【達成状況】児童肯定的回答 88.1% 教職員肯定的回答 96.2% ・1では、中学校の教員が3教科にわたり計画的に乗入授業を実施し、回を重ねるごとに中学校の学習に対して明るい展望がもてるようになってきた。 ・2では、学校園あいさつ運動を年に3回実施し、中学生とのコミュニケーションを図ることができた。 【次年度の方針】 ・1では、学校園内での他の行事との日程調整を図り、分かりやすく意欲がもてる学習内容の改善を図っていく。 ・2では、年3回のあいさつ運動を継続し、より一層中学生との交流を深めていく。

A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい。」 児童肯定的回答 80%以上	学習ボランティア等を活用したり、農業体験等、地域の協力を得たりする教育活動を積極的に行う。 1 学習ボランティアを計画的に導入し、授業への参画を図る。 2 <u>地域協議会や清原地域学校園と連携を図り、外部人材の活用を推進する。</u>	B 【達成状況】児童肯定的回答 91.7% ・1では、計画的に家庭、地域と連携を図り、教育活動の充実に努められた。 ・2では、コーディネーターを介して6年生の夢実現教室や水泳指導時の見守り等に活用が図られた。 【次年度の方針】 ・1では、ボランティア団体や人材バンクの整備と活用を図り、授業を充実させていく。 ・2では、学校支援ボランティア年間活用計画の更なる充実に図る。また、新たな人材の発掘も進めていく。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい。」 児童肯定的回答 80%以上	積極的に情報を発信し、学校・児童についての相互理解を図りながら、協働して児童の育成に取り組む。 1 学校公開を積極的に行うとともに、学校・学年・学級だよりや各種通信、ホームページを通して定期的に情報を発信する。 2 企業等による出前授業や地域施設への見学等を教育活動に積極的に位置付ける。 3 清原南部地区総ぐるみあいさつ運動や見守り立哨指導等の実施により、児童の望ましい成長を図る。	B 【達成状況】児童肯定的回答 91.7% ・1では、学校公開、各種便りともに充実しており、十分に情報を発信することができた。 ・2では、授業時数の確保のために精選しながら、地域の特性を生かすことができた。 ・3では、月1回の見守り立哨指導を行い、児童の安全指導に活用した。 【次年度の方針】 ・1では、学校公開を積極的に行うとともに、学校・学年だよりや各種通信、ホームページを通して定期的に情報を発信する。 ・2では、活動が縮小する中でも、有効な活動を精選して取り入れて、教育活動に位置付ける。 ・3では、清原南部地区総ぐるみあいさつ運動や見守り立哨指導等活動をより一層実施させ、児童の望ましい成長を図る。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 教職員・保護者肯定的回答 80%以上	安全な学習環境の確保を図るため、施設・設備・器具・用具等の安全点検を実施し、結果に基づき維持管理や改善を図る。 1 月に一度、全教職員による安全点検を実施するとともに、生活当番の巡視の機会等を利用し、日常的な点検も充実させるようにする。 2 学校業務嘱託員や機動班と連携を図り、よりよい教育環境の充実に図る。	B 【達成状況】教職員肯定的回答 100% 保護者肯定的回答 92.6% ・1では、月に一度、全教職員による安全点検を実施するとともに、生活当番の巡視の機会等を利用し、日常的な点検も充実させることができた。 ・2では、学校業務嘱託員や機動班と連携を図り、よりよい教育環境の充実に図ることができた。 【次年度の方針】 ・1では、引き続き安全点検や、生活当番の巡視をしていく。 ・2では、引き続き、学校業務嘱託員や機動班と連携を図っていく。

A25 学校は、学習に必要な I C T 機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 児童肯定的回答 80%以上	学習に必要な図書を充実させるとともに、I C T 機器などの学習に必要な備品等を計画的に整備する。 1 図書選定委員会を開催し、学習資料として活用できる図書等を整備するとともに、学校図書館司書業務嘱託員と連携し、年間を通して計画的に図書資料を市立図書館から借りるようにする。 2 デジタル教科書をはじめ、I C T 機器を授業で積極的に活用する。	B 【達成状況】児童肯定的回答 85.2% ・1では、図書選定委員会を開催し、学習資料として活用できる図書等を整備するとともに、学校図書館司書業務嘱託員と連携し、年間を通して計画的に図書資料を市立図書館から借りるようにした。 ・2では、デジタル教科書や書画カメラを授業で積極的に活用している。 【次年度の方針】 ・1では、学校図書館司書業務嘱託員と各学年が連携し、必要な図書資料を整備できるようにする。 ・2では、次年度にタブレットが導入されるので、更に積極的に活用していくようにする。
B3 教師の授業力を高めるため、互いに授業を公開し、教師としての資質・能力の向上に努めている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、校内研修を通して学び合い、自らの指導に生かしている。」 教職員肯定的回答 80%以上	全職員が授業を公開し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業研究を行う。 1 考えを深め合える授業研究会を目指した校内研修を行う。 2 話し合いの場を通して、同僚性を高める。 3 <u>地域学校園で連携を図り、研修を一層活性化する。</u>	B 【達成状況】教職員肯定的回答 100% ・1では研究の方針を示し、育てたい子ども像を明確にすることで、焦点を絞った授業研究会を行うことができた。 ・授業研究会では、活発に話し合いを行うことで、同僚性を高めることができた。 ・地域学校園内で、授業を公開し合うことで、他の学校の取り組みを知り、情報交換を行うことができた。 【次年度の方針】 ・1, 2では教職員の専門性を取り入れ、学年において教科担任制を取り入れていく。 ・3では地域学校園での連携を図りながら進め、各学校の指導に生かせるようにする。

本校の特色・課題等	B4 本や地域、友達とのふれあいを通して人間関係を深め、心の豊かな児童を育成している。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、読み聞かせ・農園活動・登下校の見守りの時など地域の方とふれあうことは楽しい。」 児童肯定的回答 80%以上	1 本とのふれあい：朝の読書活動を充実するとともに、調べ学習を充実したものにする。 2 地域とのふれあい：<u>あいさつ運動や地域ボランティア、体験農園活動等を通して人間関係を深める。</u> 3 人とのふれあい：縦割り班活動や学校行事等を通し、リーダーシップ、思いやり、協調性などを育てる。 4 学習ボランティアの充実により、教育活動を豊かにする。	【達成状況】児童肯定的回答 85.1% ・1では、読書の時間は十分取れているので、読書の質も上げていきたい。 ・2では、あいさつ運動については、実施の方法や児童への事前指導等を改善して、より意義のある運動にしたい。 ・3では、児童同士で協力して活動する機会を多く用意することができた。 ・4では、学習ボランティアの充実により、児童と関わる時間を多くとることができた。 【次年度の方針】 ・1では、本とのふれあい：朝の読書活動を充実するとともに、調べ学習を充実したものにする。読み聞かせを業間も行っていたき、希望する児童が自由に図書室で聞くことができるようにする。 ・2では、地域とのふれあい：あいさつ運動や地域ボランティア、体験農園活動等を通して人間関係を深める。 ・3では、人とのふれあい：縦割り班活動や学校行事等を通し、リーダーシップ、思いやり、協調性などを育てる。 ・4では、学習ボランティアの充実により、教育活動を豊かにする。
	B5 児童は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、地域の行事やボランティア活動に参加している。」 児童・地域肯定的回答 80%以上	学校と地域が連携協力して、児童を育成する環境づくりを推進する。 1 地域行事の情報を積極的に収集するとともに、児童への称賛・励まし等の支援を意図的に行い、意欲を高める。 2 必要に応じて教職員が、参加・協力することで、地域の方と顔の見える関係を築く。	【達成状況】児童肯定的回答 77.4% 地域肯定的回答 95.5% ・1では、道徳の授業を通して、郷土愛やボランティアの精神について考えさせる機会をもつとともに、地域行事への参加の意欲付けを行った。 ・2では、地域、家庭と教職員の関係の構築に学校全体で携わってきた。 【次年度の方針】 ・1では、身近な場所での行事や自分たちにもできるボランティア活動があることへの認識を広めていく。 ・2では、教職員も積極的に地域と関わり、連携して児童や家庭への参加の啓発を行っていく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営】

○清原地区地域学校園構想と小中一貫教育としての取組を充実させ、体験活動や読書活動などを通して子どもたちの「生きる力」を育む。

・「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」については、清原地区地域学校園構想を理解し、職員全員がチームとなり、取り組むことができた。

・「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」については、達成が十分であった。各自が意識を高めて、効率化に取り組んでいく必要がある。それにより、明るく健康な状態で子どもたちと関わる時間を増やし、教育活動をより一層充実させていきたい。

【学習指導】

○ともに学び合いを楽しみ、自ら考え、問いをもって、仲間と一緒に進んで学び続ける児童の育成に努める。

・学力向上に向けた取組(国・県・市の学力調査結果に基づく自校の課題解決に向けた指導法の改善、個を大切にした指導、学びを実感できる学習形態の工夫など)については、概ね目標を達成している。引き続き、自ら考え、問いをもって仲間と学び合う学習を意図した授業の改善・実践を行い、学校公開日に具体的な取り組みの状況を授業を通して発信する。

○家庭学習への取組については、保護者との連携に課題が見られた。地域学校園共通の「清原っ子家庭学習の約束」「家庭学習のすすめ」の内容を懇談会で話題に挙げながら、家庭学習の目的や学力定着への効果について理解を得ていく。

・地域との関わりを題材とする内容を取り入れた授業や、地域の方々と身近に接することのできる活動を通して、教職員と児童がさらに地域との結び付きを強め、親しみをもって地域のボランティア活動や行事に参加していけるようにする。

【児童指導】

○自他のよさを認め、主体的によりよい集団生活を送ろうとする児童の育成に努める。

・「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」では、「清南3つのやくそく」を活用したり、時期に応じた生活目標を設定してクラスや朝会で指導したりすることで、児童の意識が高まってきた。

・「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」では、中学校と連携したあいさつ運動を行ったり、代表委員を中心とした学年・学級での活動をしたりするなど、児童のあいさつに関する意識を高めることができた。また、地域と連携した登校指導においては、安全指導と併せてあいさつ運動をすることができた。

・「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」では、校内支援会議やケース会議の内容を基に、クラスの実態に応じた個別の支援を行うことができた。

○「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」では、道徳の時間や児童会活動を通して、いじめに対する児童の意識を高めることができた。また、教育相談やいじめアンケートの実施によって児童一人一人と話す機会をもち、話をよく聞くことで、いじめの未然防止・早期発見をすることができた。

・「本や地域、友達とのふれあいを通して人間関係を深め、心の豊かな児童を育成している。」の評価項目では、地域人材を活用した読み聞かせや農業体験活動、縦割り活動や学校行事での児童同士での交流等、様々な人と関わる機会を設けることで、心の豊かな児童の育成を図ることができた。

【健康（体力・保健・食・安全）】

○自ら積極的に運動し、健康でたくましい心と体をつくろうとする児童の育成に努める。

○健康・体力面については、検定表を活用して児童に個人目標を設定させたり、その達成状況を確認させたりしたため、良い結果が得られた。

・進んで運動する習慣をつける点では、縄跳びのジャンプ台や単元の学習カードを用意し、習慣付けていこうという手立てはしたものの、児童の中で個人差があり、全体として良い結果が得られなかった。

7 学校関係者評価

・児童が元気で明るく、ボランティア等で来校した時、とても気持ちよく感じる。児童のあいさつ、マナーはすばらしい。

・あいさつの評価が高いが、地域では不十分であり、指導が必要である。しかし、大人からの声掛けも必要であり、顔の見える関係を築いていくことが大切である。

・児童の回答と保護者の回答に、大きな差が感じられる。家庭での親子の会話を充実してほしい。また、保護者向けにもっと学校の教育活動のよさをPRしていくとよい。

・児童は地域の行事によく参加しているが、確かに年々減ってはきている。スポーツ少年団や習い事、家庭のレジャー等、多様化してきているので仕方がないとは感じるが、将来、地域に貢献できるようになってほしい。

・子どもたちには、高齢者を大切にしてほしい。自治会でも敬老会のもち方等、よい方法を考え、工夫していきたい。

・休み時間や放課後の運動が十分でないようである。「竹馬」「一輪車」等もうまく活用していったほしい。

・家庭学習（宿題）は学年や学級によってばらつきがある。質・量の検討が必要である。

・教職員の肯定的回答に、低い項目があることが気になる。特に教育活動に対しては、100%にならなくてはおかしい。自信をもってしっかりと取り組んでいただきたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・学校だよりや学校公開などを通して、地域に開かれた学校づくりに努めることができた。保護者や地域の方は学校を信頼し、ともに歩んで行くという意識が高く、本校の教育活動にボランティア等として積極的な支援を得ることができた。今後も学校への理解をさらに深めていただけるよう、本校教育活動の様子や児童のよさや地域・家庭と連携した活動について、積極的に情報を発信していく。

○教職員の「不登校を生まない学級経営」や「分かる授業・きめ細かな指導」等の取組に対して、概ね肯定的な評価がなされている。しかし、「宇都宮の良さ」「持続可能な社会」「ICT機器の活用」等、新たな課題に対しての肯定的な評価は、まだ不

十分である。今後は、指導を充実させるとともに、授業参観等を通して、その成果を保護者に発信していく。

○今後も児童が明るく元気に学校生活を送れるよう、教職員と多様な専門性を有する学校スタッフが、自らの専門性を十分に発揮し、「チームとしての学校」の教育力を発揮しながら協力して指導に当たり、信頼される学校づくりに取り組んでいく。

○学力の向上に向けて、個の学びや学び合いを充実させ、分かる授業の実践に取り組んできた。今後も、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、より一層、指導方法を研究し授業改善に取り組んでいく。

○家庭学習の習慣化については、今後も「清原っ子家庭学習の約束」を活用し、家庭と連携して継続取り組んでいく。また、その際に児童が意欲的に取り組める課題設定や方法を指導したり、取組に対して助言・称賛・励まし等の支援を行い、さらに意欲を高めたりする。

○いじめ対策については、未然防止・早期発見・早期解消のために学校生活アンケートやハートタイム（教育相談）を継続し、児童理解に努める。また、学校でのこれらの取組や児童会での取組（いじめゼロ集会等）を児童指導だより等で積極的に発信していく。

○学校全体に落ち着きがあり、子どもたちは明るく元気に過ごしており、時と場に応じたあいさつも身に付いてきている。これからも地域の教育力を生かしながら、保護者とのよりよいコミュニケーションを図り、児童指導の推進に努めていく。

○あいさつについては、校内における日常の指導をはじめ、中学校と連携した学校園あいさつ運動や、地域と連携した清原南部地区あいさつ総ぐるみ運動により、今後も意識を高めていく。

○健康や体力に関する取組では、運動への意欲を高めるために、検定カードやワークシートの活用を工夫し、運動に親しむ環境を整えることができた。今後は、体育の授業だけではなく、休み時間や放課後等も積極的に体を動かす機会を増やしていくことができるよう、子どもの意識を高めていく。

○食については、学校給食を通して栄養のバランスを考えて食べる意識を高め、食育の推進を図るとともに、学校と家庭が連携し、食の大切さを十分に指導していく。